

地区名：和泉地区

実施主体：和泉自治会

1 基本データ

- 地区人口 482人（H31. 1. 1 現在）
- 世帯数 228世帯
- 行政区数 11行政区
- 面積 約332平方キロメートル
- 地区の沿革

和泉地区（旧和泉村）は、福井県の東端に位置し、面積332平方キロメートルの約9割を山林が占めている。地域の中央を岐阜県境に源を発する九頭竜川が東西に貫流しており、また九頭竜川をせきとめた九頭竜ダムを始め、大小複数の人造湖を形成している。



春の九頭竜ダム

昭和31年9月に下穴馬村と上穴馬村が合併して和泉村となり、さらに昭和34年10月に石徹白村の一部を編入した。そして平成の合併により平成17年11月7日に大野市と合併し現在に至っている。

和泉地区は、昭和43年の九頭竜ダム完成や昭和62年の日本亜鉛鉱業中竜鉱山の採掘中止などが影響し人口が激減した。この人口の絶対数の少なさ、豪雪地帯・山村地域という地理的条件、工業用地条件の欠如による魅力ある職場の少なさ、都市的生活環境整備の立ち遅れ等に

よる若者の不定着により過疎化が進んできた。

このような中、旧和泉村では地域の特性を生かしたむらづくりの理念のもと「観光立村」を掲げ、昭和40年代後半より多くの観光施設の整備を行ってきた。

今年で第39回となった「九頭竜紅葉まつり」は、10月に九頭竜国民休養地を会場に行われ、県内でも有数のイベントとして定着し、今年度も2日間で4万8千人の来場者で賑わった。

交通網も岐阜県側で国道158号線に繋がる東海北陸自動車道が整備され、中京圏からの距離も短縮され「福井県の東の玄関口」と位置付けられるようになった。

2、現状と課題

和泉地区は、大野市街地から約30kmの距離があり、行政サービス低下への懸念や若者の流出による高齢化が進み、地域力・マンパワー不足による地域の衰退、経済情勢の悪化による観光客の減など、当地区の将来への不安が増大している。

また、合併前は小さな自治体であり、きめ細やかな行政サービスを受けていた。このような状況もあり、住民が自ら行動を起こし自らの手で事業を行うという意識が薄く、行政に強く依存している状況であった。合併を機に、少しずつではあるが依存体質から脱却しつつある。

3、事業内容

平成30年度は、2つの事業を実施した。

- ① 和泉花木の里事業
- ① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト（花桃の育成管理）

主体：越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会

平成21年11月、和泉自治会の賛同を得て、民間企業と地元住民による自主事業団体「越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会」が、この地域に花桃の植樹・育成事業を図ることにより、観光拠点としての地域づくりに寄与することを目的に発足した。

平成22年から24年の3ケ年で1,500本の植樹を行い、以降、平成30年までは折れた木等を補植し、計1,600本の植樹した木を管理している。自治会も実行委員会の目的に賛同し共通認識をもち、実施主体である実行委員会の事業推進に協力している。



道の駅の花桃

② 道端花いっぱい運動

主体：自治会

「福井しあわせ元気国体2018」開催に向け、公民館近くの花壇に花を植え、通勤・通学で行き来する人に癒しを与えるとともに、国体成功に向け気運を高める。また、住民各自が作業を自主的に行うことにより環境美化の意識を高め、地域を花でいっぱいにするを目的として実施している。

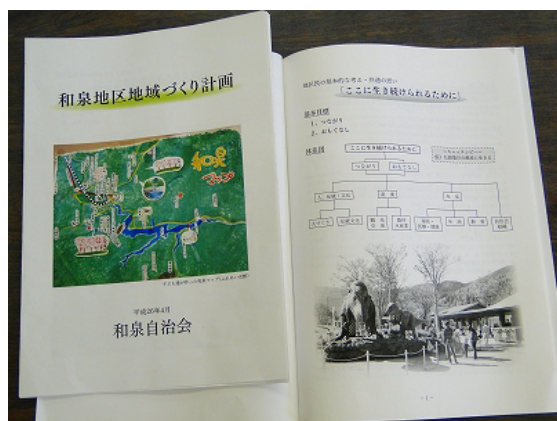


公民館近くの花壇

② 地域づくり計画活動事業

主体：自治会

平成26年4月に「ここに生き続けられるために」の想いをもち「和泉地区地域づくり計画」を作成した。その計画を実践していくために3つにチームが主となり、具体的な活動を実施している。地域資源を活かして、結の精神によって自立した地域を目指していく。



和泉地区地域づくり計画

4、事業の成果

① 和泉花木の里事業

① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

平成22年から24年までの3ケ年で植樹イベントを実施し、九頭竜保養の里、道の駅九頭竜、前坂キャンプ場など区内各所に1,500本の花桃を植樹した。4年目以降の平成25年

からは、秋には雪対策として苗木の雪囲い、春には苗木の雪囲い撤去、また年間を通じて消毒や除草剤、肥料散布、周辺の草刈作業を実施し、計1,600本を管理している。

4月は雪囲い取外し作業を地区の有志達が作業を行い、9月には暗渠排水埋設工事及び台風の影響による倒木起こしを行った。10月20日の雪囲い作業及び交流会では63名が参加し、それぞれの作業を実施した。また、和泉保育園閉園により敷地内の花桃の苗木をフレアールに移植した。

これらの作業を行うにあたっては、実行委員会メンバーのほかにボランティア「花桃ガーディアンズ」を募集している。和泉地区の住民だけでなく、地区外からも参加してもらうことで、多くの人に和泉地区を知ってもらい、さらに地元住民と触れ合う機会を創出している。ボランティアには地区以外の参加者が多く、作業を通して交流が生まれている。

また、将来この地域が花桃でいっぱいになり、多くの人にこの地を訪れてもらえることに思いをはせている。



花桃の育成管理（追肥作業）



花桃の育成管理（追肥作業）



花桃の育成管理（雪囲い作業）

③ 道端花いっぱい運動

公民館近くの花壇に花を植え、草むしり等を住民各自が自主的に行うなど、環境美化に関する意識が高まった。また、通勤・通学で行き来する人に癒しを与えている。



「道端花いっぱい運動」の花壇



「道端花いっぱい運動」の花壇



「栃の実灰汁抜き教室」の様子

2 地域づくり計画活動事業

(1) チーム活動「産業チーム」は、また、この「和泉地区地域づくり計画」に基づき、特産農林産物の加工技術を習得するため「栃の実灰汁抜き教室」を行い、その技術を伝承するための伝承講習会を企画し実施した。両日で、延べ39名の参加があった。

「生活チーム」は、子どもから高齢者までが集い語り合う地区住民の交流拠点「より処」を開設し、備品等を整備した。「より処」は毎週1日(水曜日)開き、多くの住民が気軽に集まり、お茶を飲みながらおしゃべりしたり、各々が持ち寄った趣味で楽しんだりしている。

気軽に来ることができない遠距離の集落の住民を対象に、送迎つきで「より処体験」を実施し、近くまで来た時にいつでも寄れるように雰囲気を知ってもらった。

「栃の実灰汁抜き教室」



「より処」日頃の様子

このように、いつでも誰でもが集まる交流の拠点に集うことにより、お互いのつながりを深め、連携感が強まり、地域力が向上されていくものと感じられた。

また、10月5日・6日に行われた「福井しあわせ元気国体」カヌー競技では、応援用の手旗や横断幕を作成し、観戦者等に手旗を配布すると共に、地元住民の機運を高めた。



「福井しあわせ元気国体」カヌー競技

「人、伝統・文化チーム」は、地区の人口減少により和泉地区が誇る伝統行事などが途絶えないよう、また和泉の地域資源（自然・名所等）とあわせて次世代に継承していくため、それらを記録し情報発信をしていくホームページを整備した。この記録を広く住民に公表することで、地区への帰属意識を高め、また地区外に発信していくことで、和泉地区を広く知ってもらえるものと思われる。また、穴馬民謡保存会や昇竜太鼓保存会、青葉の笛保存顕彰会、穴馬紙大すきの会等の団体を支援を行った。



穴馬紙 紙すきの様子



「フォーラム青葉の笛」の様子

5、今後の展望

平成22年から活動が始まった「越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト」は、地区内外の多くの人の協力を得ながら進めており、地区住民が自発的に行動する見本となるものがある。今後も花桃回廊の活動とあわせて道端花いっぱい運動の継続を実施しながら、地域の環境美化に努めていく。

また、「和泉地区地域づくり計画」にそった事業・活動により、住民が自主的に地域づくりに携わっていく転機となり、その結果、地域にリーダーを育て、人と人との繋がりや集い、結束力を高め、地域力・市民力が向上していくものと確信している。

「ここに住み続けられるために」を基本的な考え・共通の思いとして、自ら考え、行動する自立した地域づくりを推進していきたい。